

登山 月報



JMSCA

登山月報 第635号 令和4年2月15日発行

昭和45年12月12日第三種郵便物認可（毎月一回15日発行）



ムスターグ・タワー (7,273m)

8月11日 みんなで山を考えよう！
 祝「山の日」
 全国「山の日」協議会
 山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

No.635

2022年新春懇談会	2
スポーツクライミング第17回ボルダリングジャパンカップ	3
「国体ブロック選出数 25チーム」「監督はスポーツクライミング指導者資格」 ..	6
ルートセット講習会	7
自然保護委員会のSDGsな活動②の2	8
第153回 Mountain World	9
Enjoy Climbing	10
元・日本山岳協会会長 坂口三郎氏を偲んで 田中 文男	11
寄贈図書	11
JMSCA、表紙のことば、編集後記	12

2022年新春懇談会



日本山岳・スポーツクライミング協会の2022新春懇談会が1月15日(土)に東京：アルカディア市ヶ谷で密を避けるために午前中は表彰式、午後は懇談会に分かれて開催された。

●山岳特別功勞表彰

JMSCAや各岳連の活動に永年ご尽力、貢献された方々に対して功勞表彰が行われた。

- ・伊藤 吉樹(山形県山岳連盟)
- ・山田 悟史(一般社団法人大阪府山岳連盟)
- ・十河 利雄(香川県山岳・スポーツクライミング連盟)
- ・大越 久嘉(滋賀県山岳連盟)
- ・本郷 利夫(公益社団法人東京都山岳連盟)

●スポーツクライミング優秀選手表彰

2021シーズンに日本代表としての活躍が特に顕著だった選手に贈られる優秀選手賞に選ばれたのは、東京五輪で銀メダルに輝いた野中生萌、銅メダルを獲得した野口啓代、世界選手権でボルダリング優勝した藤井快、W杯ボルダリングで年間優勝を遂げた緒方良行、世界ユース選手権で優勝した久米乃ノ華(ジュニア女子・リード)、上村悠樹(ユースA男子・リード)、安楽宙斗(ユースB男子・リード)の計7人であった。東京オリンピックシーズンであったが、これらの選手により世界大会で日本選手が多いに活躍したシーズンであったことを振り返った。

表彰式には協会理事の方々のみならず多くのスポンサー関係の皆様、スポーツクライミング部の皆様、現役日本代表選手なども参加した。表彰式後には集まった日本代表選手達が各スポンサーの皆様のもとを訪れ、2022年シーズンの抱負を語った。どの選手からも明確な目標が語られ、新年の誓いを公にする良い機会となった。

【優秀選手賞】

- 野中 生萌(無所属)
- 野口 啓代(Team au)
- 藤井 快(Team au)

緒方 良行(ホリプロ)

久米 乃ノ華(船橋市立船橋高等学校)

上村 悠樹(東京都立上野高等学校)

安楽 宙斗(八千代市立大和田中学校)

(記 安井博志)

12時より参与会が開催され、オミクロン株の急激な進行によりキャンセルの人も出ましたが、歴代会長他12名の方にご出席いただいた。

13時よりの懇談会では、1つのテーブルに4人の固定席とアクリル板が取り付けられ人と人の距離を3m位離れた状態でビールも手酌で注ぐ方法で、従来よりも約半分程度の人数だった。

亀山副会長の開会の言葉、丸会長が主催者を代表して挨拶を行った。ご来賓を代表して務台衆議院議員様および藤原登山研修所所長様よりご挨拶をいただき、顧問5人による乾杯により懇談が開始された。

食事各テーブルに運ばれアクリル板で仕切られた場所で、食事の時だけマスクを外し、すぐにマスクをして面談したがやはりビデオより断然良いですね、久しぶりに皆に会って元気な姿を見ることが出来た。

さあ、次のステージへ向かって、登山、スポーツクライミング、山岳スキーを発展させるためにがんばろう。

(記 蛭田伸一)



スポーツライミング第17回ボルダリングジャパンカップ

スポーツライミング
村岡正己

2月5日ー6日、第17回ボルダリングジャパンカップを三重県四日市ドームで開催。当初、3月上旬に駒沢で予定していましたが、コロナ禍、選手のWC出場のビザ獲得に時間がかかるため時期、開催地を変更しました。変更においては、開催地を選定するために非常に苦勞(多くの施設がスケジュールが決定)を要しましたが三重県、四日市市、四日市ドーム、三重県山岳・スポーツライミング連盟の全面協力があり開催できることになりました。この場を借りて改めてお礼申し上げます。

また、決定当初は、コロナの感染が低い状態で推移していましたが今年に入ってからオミクロン株が蔓延し、開催が危ぶまれましたが、会場来場者全員PCR検査陰性(観客含む)を条件とし、結果無事に開催することができました。選手、スタッフ、観戦者すべての来場者に感謝いたします。

【競技】

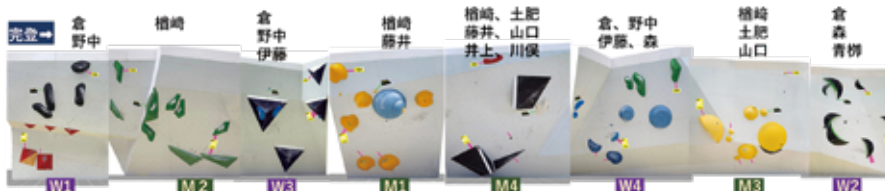
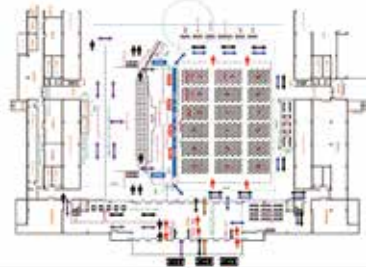
男子では、榑崎智亜が準決勝6位でしたが、決勝は全完で優勝を獲得。決勝には土肥圭太、川又玲瑛、山口賢人、藤井快、井上祐二、榑崎智亜が進出。その中で第2課題の最初のエアームーブ、ゾーンを獲得するに苦勞する内容でしたが榑崎が唯一の完登。第3課題においても、ゴール手前のバランス的なムーブをこなし完登、優勝をものにした。

女子でも全完の倉菜々子が優勝。準決勝5位でしたが、決勝の多彩な課題を倉菜々子ひとりが全完。野中生萌、伊藤ふたば、森秋彩の3強をおさえて優勝を勝ち取った。

【運営】

1. 会場レイアウト

(四日市ドーム半面を使用)



男子	氏名	No	所属	TOTAL	M 1	M 2	M 3	M 4	準決勝
1	榑崎 智亜	M 003	TEAM au	4T4Z.11/9	T222	T524	T222	T221	6
2	土肥 圭太	M 017	鹿児島山岳・SC連盟	2T4Z.3/13	**27	**23	T121	T222	1
3	藤井 快	M 001	TEAM au	2T3Z.5/7	T323	****	**23	T221	4
4	山口 賢人	M 026	大阪府山岳連盟	2T3Z.7/11	****	**28	T321	T422	3
5	井上 祐二	M 014	-	1T3Z.2/9	**22	****	**25	T222	5
6	川又 玲瑛	M 010	栃木県山岳・SC連盟	1T2Z.2/12	****	**210	****	T222	2

女子	氏名	No	所属	TOTAL	M 1	M 2	M 3	M 4	準決勝
1	倉 菜々子	W 006	愛知県山岳連盟	4T4Z.13/12	T322	T424	T525	T121	5
2	野中 生萌	W 001	-	3T4Z.4/7	T222	**23	T121	T121	1
3	伊藤 ふたば	W 002	TEAM au	2T3Z.6/7	**21	****	T424	T222	3
4	森 秋彩	W 010	茨城県山岳連盟	2T2Z.9/8	****	T121	****	T827	2
5	青柳 未愛	W 013	東京都山岳連盟	1T2Z.1/3	****	T121	****	**22	4
6	菊地 咲希	W 017	日新大災	0T3Z.-17	**27	**24	****	**26	6



2. 入場数(新型コロナ感染対策 上限850人)

	2月5日	2月6日
・スタッフ	95	97
・関係トレーダー	67	103
・JM S C A	2	2
・VIP	5	34
・選手	96	39
・トレーナー	5	6
・観客	93	168(決勝+28)
・メディア	24	28
合計	387	505

3. 環境データ(競技中、暖房使用)

天気:

- ・2月5日天気 1.1~7.6℃ 晴れのち曇り
室温気温 10~13℃ 二酸化炭素濃度 386~690ppm
- ・2月6日天気 -1.1~7.2℃ 晴れのち雪
気温9~13℃ 二酸化炭素濃度 395~800ppm

3. メディア(クリッピング)

TV:6社 新聞:14社 WEB:26社

*北京オリンピック、新型コロナの影響にて少ない。



参考画面
・フジテレビ(S-PARK)
23:45-

4. YOU TUBE

会場への来場制限はあったが、YOUTUB LIVE 視聴は高くチャットは今までの最高数。1週間後23450。

5. 映像展開 (アーケ)



Online Observationでのビジュアル

*今回は、Samoyed (AR電動ドリー)によるオクルージョン展開を展開 (CGと実写の融合)



【開催地、スタッフコメント】

1. セッター：杉田 雅俊 (インタビュー)

■会場寒くて大変だったと思いますが注力したことはなんですか？

→選考大会ということもあり、競技のリザルトをうまくわかるだけでなく、ワールドスタンダードな課題設定を意識しました。登れなかった選手も今後世界で通用するために必要な能力なので、練習の目標になるようなメッセージを含ませました。

大会規模が大きくなると、セッターもたくさん必要なので、8人のセッター全員を同じ目標・方向性に向かってまとまっていくのを意識しました。ミーティングもこまめに取り入れられました。大変だったのは、いつものセット環境より寒かったことくらいです。

■結果についての感想はありますか？

→女子選手の競技力が底上げされてきているのを感じました。思っていたより距離感のある課題やコーディネーションに対応できる選手が増えてきている印象です。

■今後のセッターとしての取組みを教えてください。

→公式の大会セットをおこなううえで、結果だけでなく、選手にとって限界を押し上げていけるようなセットを心がけています。毎年選手レベルも上がっており、課題のバリエーションもアップデートされているので、セッターとして常に技術を磨くことを忘れないように、心がけていきたいです。

2. 選手管理：

戸田大輔 (三重県山岳・山岳スポーツクライミング連盟)

昨年の秋にBJCを三重で開催してみませんかという提案をJMSCAから頂き、会場を探しに三重県内各地を走り回った事がつい先日の事のように思えます。

昨年度のBJC 2021に引き続き、コロナ禍での開催となったBJC 2022。私には初めての会場、初めての役職で不安もありましたが、選手管理をメインに担当している以上何があっても選手ファーストで動こうと決めていました。結果的には県内及び隣県から応援に来ていただいたスタッフの皆さんはスポーツマネージャーや選手管理チーフの指示を的確に理解して動き、選手管理が担当するエリアは決勝終了までスムーズに選手を送り出すことができました。

また、今回何よりも気を遣ったことが選手、会場管理に関わるスタッフの感染症対策でした。アイソレーションエリアやウォーミングアップエリアでの密接を避けるため2m四方にテープを貼ったスペース100カ所以上作り、その中に選手1名が入るようにしました。消毒も予選終了後、準決勝終了後に選手管理エリア全体にしっかりと行いました。コールゾーンにおいても選手間の密接を避けるため椅子を一定間隔で設置し、選手が座る際は持参のタオルを敷く、不織布マスクもコールゾーンから選手が出る直前まで装着することを徹底しました。スタッフに関しても不織布マスクとフェイスガードを併用、選手の荷物運搬やコールゾーンではビニール手袋を装着して対策を徹底しました。感染症対策が必要なくなる日を心待ちにしながらも、今はそれに向けてしっかりと対策をとる時期と考えています。

このような厳しい状況下で大会が開催できたこと、そして大会に関わった全ての皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

3. 三重県山岳・スポーツクライミング協会：会長 根本幹雄 第17回ボルダリングジャパンカップを終えて

関係各位の絶大なるご尽力をいただき、三重県内初の開催でしたが無事終了することができました。まずもって皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。

大会開催のお話がJMSCAからあったのは昨年年末、開催をお受けするにあたり、以下2点の不安がありました。一点目は、2021年秋開催予定であった三重国体が中止となり、連盟会員の大半が今回のような大きな大会の経験に乏しいことです。二点目は新型コロナウイルスの感染拡大です。

一点目については、両日の責任者に、実戦経験豊富な人材を配置しました。副実行委員長、副スポーツマネージャー、副サービスマネージャー他が中心になり経験少ない連盟の大会役員をサポートする体制で臨む事としました。本大会競技役員には連盟会員数十名が参加意思を示していただき、後期高齢者の域にはいられた元副会長、前会長、現役高校生と、老若男女問わず連盟総動員で大会開催にあたってくれたといっても過言ではありません。また開催前日から準備をしていただいた方も多く、頭の下がる思いでいっぱいでした。

二点目については参加役員並びに観客全員PCR検査必須とはいうものの、昨年9月三重国体中止の決定に至った1日あたりの感染者数(約400名)を大きく超過し、大会開催数日前には過去県内最多の1000人を超えてくる状況でした。責任者として、もし大会に協力して頂いた方の中で大会終了後に感染が判明、また重症化してしまったらと心配は尽きませんでした。今後もしばらく続くであろう、頭の痛い問題で

す。地方大会においてもPCR検査等徹底的に実施しての開催が必要と思われます。その意味でも今大会の感染症対策は大変参考になりました。

以上二点の不安はありましたが、現在は無事に大会を終えることができ安堵の思いでいっぱいです。

今回会場をご提供いただいた四日市市長の森様をはじめ三重県、三重県スポーツ協会の方も多数ご観戦いただきました。また観客の皆様もPCR検査が必須となる中、2日間で約延250名強お越しいただいたと聞いています。

今大会は県内クライミング人口の拡大、若手選手の育成面でも大変意義のあるものでした。数年後になるかもしれませんがまた三重県内で同様の規模の大会が開催できることを願って報告とさせていただきます。

最後に大会の裏側を少し紹介したいと思います。

4. ベニュープロデューサー：藤枝隆介－FUJIEDA Diary－

■設営

・1月30日 日曜日

15時開場入り。今大会では例年より1日仮設壁工事の日程が短いため、翌日からの本工事に向けて、資材搬入車輛の進入エリアを含む人工芝グラウンドの養生作業と壁立て位置の墨出しを行う。墨出しは、四日市ドームがガラスに囲われた建物のため、選手・観客・メディアなどの各導線を歩き直し再確認しながら微調整をおこない決定。

・1月31日 月曜日

8時の室温は6度。競技会場は暖房費が高額なため設営・撤去期間は空調を稼働させないため、防寒着を着込んでの工事監理となる。昨年までの会場であった駒沢公園屋内球技場では仮設足場や競技壁パネル、角材などをクレーンを用いて地下へ降ろす必要があったが、四日市ドームでは施設内までトラックが入れるため、順調な搬入作業となる。東商アソシエートによる競技壁工事は昼過ぎには足場とステージの組み上げが完了しパネル工事に移行、夜の作業終了時には6割ほどのパネルを貼り終える。また、同日朝より西尾レントオールによるフロアシートの敷設作業及び進行・中継ブースの設営作業も行われた。

・2月1日 火曜日

本日より造作工事を担当しているムサシとAR及び3DCG担当のOnlineObservationが現場入り。ムサシはJMSCA所有のボルダリングマットと協賛ホルドのチャーター便での配送も担当しており、翌日からはじまるルートセットに向けた搬入作業が朝からはじまる。

また、競技壁がおおよそ完成したためテクニカルデリゲイトの百瀬とともに各種エリアの仕切りパネルの位置やアクリル戸の目隠しを相談する。14時から主要なルートセッターが集まりホルドの開封作業をおこない、翌日からの作業工程を再確認した。壁立て作業終了後の夜間にはマットの敷設をおこなう。

・2月2日 水曜日

8時の開館と同時にルートセッターと東商アソシエートで競技壁の確認作業をおこない、修正作業を依頼後、決勝ルー

トからルートセット開始。

OnlineObservationは競技壁の全幅を移動できるリモートカメラをこの大会で初導入するため、スライダールールの設置作業をおこなう。ムサシはリーダーズコーナーと選手入場ゲートの造作作業を開始。

・2月3日 木曜日

ルートセットは引き続き決勝課題。午前中は課題の完成度を高め、午後からの準決勝課題作成を目標に作業開始。また、会場のイベント分電盤から仮設電源の引き直し作業もはじまる。また

アップライトによるネット環境の構築作業と既設の会場LEDビジョンと仮設LEDビジョンへの映像送出テストもおこなわれた。会場の室温は相変わらず低く、寒さのため閉館時間の21時まではセット作業ができない状況が続く。

・2月4日 金曜日

MMSCA及びJMSCA競技役員、中継・照明・音響業者などほぼ全てのスタッフが集まり設営作業も大詰めを迎える。各受付や観客席の設置、大会本部、メディアルームやVIPルームの設営、アイソレーションやアップ壁の準備など各部署の指示のもと大会準備を進める。ルートセットも午後から予選課題へと移行するが、複数の選手がトライした時の競技壁の揺れがシビアなムーブの課題では結果に影響する可能性があるということで、東商アソシエートにも再度会場入りして改善してもらうこととなる。仮設足場へのウェイトの設置、単管での筋交いの増設、ラッシングでの足場全体の締め上げなどをおこない揺れの減少を確認する。

設営作業終了後は役員全体でのミーティングを実施し大会当日以降の作業を確認し解散となった。



「国体ブロック選出数 25チーム」「監督はスポーツライミング指導者資格」

— J S P O 国体委員会承認 —

スポーツライミング部国体委員会

スポーツライミング競技の、ロサンゼルス五輪からの実施競技おめでとうございます。

コロナ禍の中、二年続けての国民体育大会（以下「国体」）の中止/延期があり、今年こそは、山岳競技（当時）が国体正式競技となった第35回国体（栃木県）以来、42年ぶり開催となる節目の第77回（栃木県）を、全国のみなさまとともに開催を実現しましょう。

さて昨年12月9日（木）、J S P O 第3回国体委員会が開催され、本協会から要望を提出していました、以下の案件が承認されました。

【決定事項】

2、開催基準要項の改定について

(4) スポーツライミング参加人員

- 参加都道府県数及び監督資格の変更について、提案通り承認された。なお、参加都道府県数の変更については第78回大会から、監督資格の変更については第79回大会からの導入とする。

ブロック選出数改正は「第78回国スポ」

この度の要望について、改めてご説明いたします。

現行の国体競技は、都道府県予選会（又は予選会免除特例）で選出された、4種別のうち「成年男子」はストレートに、本大会への出場権を得ます。が、成年女子、少年男子、少年女子の3種別は「ブロック大会」での選出となっています。

これを以下のようにすべての種別に、種別間の格差のない同一出場数を確保するよう変更いたします。

出場種別のジェンダー平等化とともに、指導者のジェンダー化についても、本協会は推進いたします。

種別	出場数	変更後
成年男子	47	25
成年女子	18	25
少年男子	20	25
少年女子	18	25

Q: 今まで本大会に出場できた、都道府県の「権利」（「成年男子」）はどうなりますか。

A: ブロック/種別ごとに、本大会出場チームを確保いたします。また、今までブロック大会での選出でなかった「成年男子」も、ブロック選出種別となります。

本大会出場とブロック大会選出との関係について、表にしてみました。

まずブロック大会ごとに本大会出場種別を決定（都道府県の本大会出場は確保）し、それ以外の3種別が従来同様のブロック大会での選出となります。

	成年男子	成年女子	少年男子	少年女子
一年目	本大会 出場	ブロック 選出		
二年目	ブロック 選出	本大会 出場	ブロック 選出	
三年目	ブロック 選出		本大会	ブロック 選出
四年目	ブロック 選出			本大会 出場

成年男子種別の出場数変更により、少年種別や成年女子種別の本大会参加数が増加し、次代を担う選手の育成/強化、地域におけるスポーツライミングの普及が期待されます。

さらに本大会においては、競技運営や競技施設をはじめ宿泊・計画輸送等の効率化が図られます。

SC指導者監督資格「第79回国スポ」実施!

国体における監督資格=指導者=は、養成に時間を要することから、J S P O ・スポーツライミング指導者の監督義務化を、ブロック選出数改正翌年の「第79回国民スポーツ大会」から実施となります。

養成には2年間の猶予がありますので、ぜひ女性指導者をはじめとした養成をお願いいたします。

J S P O 「3巡目国スポアンケート」実施

J S P O は今、14年後にやってくる「国民スポーツ大会3巡目以降」への大会のあり方のアンケート調査を実施しています。

本委員会は、国体がスポーツライミングの国内における普及/啓発による競技施設の整備/充実、世界で活躍できる選手の輩出に重要な役割を担っているとの視点で、回答を行いました。

引き続き、全国の仲間のみなさまと国体競技の充実に図りたく、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

（国体委員長 西原斗司男）

ルートセット講習会

木村 伸介

12月16日－18日に加須市民体育館にてルートセット講習、検定会が開催されました。年2回開催されている本事業は毎回キャンセル待ちが出る人気ぶりで、今回も募集初日に定員が埋まってしまう。この講習会では基準評価点をクリアするとC級ライセンス（県大会でチーフルートセットが可能）、また基準評価点には満たなくとも一定の評価点を満たした参加者には公認セッター資格が与えられる。

今回の講師は机上講習が東。実技講師は木村、岡野、松島の3名。

初日前半は東講師による机上講習。ここでは実際の大会を見据えてどのようにセットを行なうか、また、毎年変わる競技ルール等も盛り込んで配布資料を基に講義が行われました。その後、講習生は筆記試験に臨み午後からは実技へ。

実技講習では支点の構築、荷揚げ方法、安全確保等の確認を行った後、指定したグレードの課題作成に取り掛かってもらう。中には普段ボルダーをメインにセットしている講習生も多く、慣れない高所作業に戸惑う姿も見られた。

2日目は前日作成したルートを講習生同士で登りあいルートの評価を行います。修正箇所はないか、もっとこうの方が良くなるのでは等。実際のコンペセットでもこの議論が一番重要な為、作成されたルートを1本ずつ議論していきます。2日目の午後からは1本目の反省を生かして2本目を作成。2日目からは検定会（公認セッター保有者の再試験）希望者も合流して行われました。

評価方法は2本の作成ルートの内容点（検定会参加



者は1本のみ（の評価）とクライミング能力、セットスピード、習熟度、コミュニケーション能力等総合的に判断します。公正を保つ為、得点は3名の講師が独自採点した評価点を平均化して判定を行い、今回は8名中4名がC級基準評価点をクリアしました。

今回は8名中3名が検定会希望者。年2回開催されているが、新規参加者と検定会希望者が同時に応募してくる為、検定会希望者が多くなれば新規の応募者の枠が狭まくなり、またその逆もありうる為キャンセル待ちの原因にもなっている。今後、可能であれば新たに公認セッターのみを対象にした検定会の必要性を感じました。



2015年の「パリ協定」において、森林を含む温室効果ガスの吸収源・貯蔵庫の働きを保全・強化すべきであることが規定され、温暖化対策における森林の役割の重要性が明確に示されたことは前稿で記した。

樹木は光合成によりCO₂を吸収しO₂を放出する一方で、呼吸によりO₂を吸収しCO₂を放出している。ただし、光合成に使われるCO₂量が多いので、差し引きすると樹木はCO₂を吸収していることになる。枯れ葉、枯れ枝、枯死木も炭素を含んだ土壌有機物として土壌に蓄積されるし、伐採された木も材木や家具として炭素を保持し、また残材や廃材がバイオマスエネルギーとして燃料に利用されれば、石油などの化石燃料を代替することで排出されるCO₂の削減につながり、温暖化対策に直接的に貢献することになる。

林野庁の資料によれば、吸収し蓄積するCO₂量は木々により異なるが、例えば、適切に手入れされている36～40年生のスギ人工林は1ha当たり約302トンのCO₂を蓄えており、またこの36～40年生のスギ人工林1haが1年間に吸収するCO₂量は約8.8トンと推定されている。一方、1世帯から1年間に排出されるCO₂量は2017年で0.448トンであったが、これは、36～40年生のスギ約15本が蓄えている量と同じ位であり、この排出量を40年生のスギが1年間で吸収する量に換算すれば509本分に相当する量という。

適正に手入れされた森林の吸収量だけがパリ協定削減目標達成に利用されることが認められており、適時適切な間伐等の森林整備を推進していくことが持続可

能な社会に繋がることになる。育成林を保全し、森林の面積を効率的に増やすことが吸収源対策につながることから、森林を伐採した後は適切に再造林等の更新作業を行うこともまた重要となる。

こうした知見をもって、JMSCA自然保護委員会有志は、山岳環境保全の立場から地球温暖化を防止するために山屋としてできることにつき話し合いを持った。侃々諤々の議論の末、

- ①温暖化防止のために植林やその維持管理の活動を全国に提言していく
- ②地域の実情に併せた植林、森林保全活動を維持継続するために、各方面からの助成金や協賛あるいはクラウドファンディング(以下「助成金等」という)等により資金を調達する。また、その助成金等活用事例を全国で紹介していく
- ③活動の実施に備え、植林、間伐や下刈り、伐採等々、各種の行事や講習会に参加して林業について学び、森林整備を体験する
- ④実際の活動を「登山月報」などに適宜紹介するなど、あらゆる機会を利用して全国に発信し続ける等々の提言が出された。

全国には手入れをされず放置された森や病害虫により枯死した林も数限りない。3月6日の自然保護委員総会では、温暖化対策のみならず生物多様性と生態系の保全を果たすことにも繋がる、まさしくSDGsな活動として全国にこれらを提案していこうと考えている。

(自然保護委員長 小高令子)



皆伐された奥多摩九重山



金華山のマツ枯れ

第153回 Mountain World

アンアプルナⅢ峰南東稜初登攀

池田常道

アンアプルナⅢ峰(7555m)は1961年のインド隊(M・S・コーリ隊長)によって北面マナン側から登られた。第2登は70年の女子登攀クラブ隊(宮崎英子隊長)で、モディ・コーラ内院から南西面をたどる新ルートから頂上に立っている。隣のⅣ峰と結ぶ東稜は80年のスイス隊(ドニ・ベルトレ隊長)が登り、合わせて東峰(6900m)にも足跡を印した。

ところが、セティ・コーラに面した南東側はアプローチに使えるトレイルなどなく、ルートのなかほどには標高差2500m近いピラーが立ちはだかり、容易に接近を許さなかった。初めてこれに挑んだのは1981年のティム・リーチ、ニック・コルトン、スティーブ・ベルの英国トリオだった。アルパインスタイルで試みたが、東稜を6500mまでたどって高所順応したものの、目標の南東稜に手を付けるには至らなかった。2年後の秋、同じく英国のニック・キークスら4人は3200mにBCを置き、稜の基部にABCを進めて、高所順応するため東稜を2回往復した。

キークスとジョン・ティンカーが南東稜に向かうためABCまで下る一方、トレヴァー・ピリングとロバート・アトリーはそのまま東稜から頂上を狙うことにした。しかし、悪天候のため10月9日6300mでビバーク地に閉じ込められ、翌日退却する羽目になった。ところが、100mも下ったところでアトリーが胸の痛みを訴えて動けなくなり、ピリングの手に負えなくなった。彼は3日後、単身下降してキークスとピリングに助けを求めたが、アトリーを運び下ろせそうなルートは雪崩の危険にさらされていた。3人は18日になってもアトリーのところにたどり着けず、彼を残して山を去るしかなかった。

それから2年後に挑んだイーウェン・トッド隊長(英)ら4人は大雪のためBCまでもたどり着けず、88年のマル・ダフ隊(英)5人も東稜の6450mまで登って順応するに留まった。91年のウィリアム・バンクcroft(米)ら2人も4730mで断念した。

南東稜は難しいという評判が立ってしばらく挑戦が途絶えたが、2010年の春と秋にピート・ベンソン、ニック・ブロック、マット・ヘリカーの英国トリオが挑んだ。

日数を節約するためヘリでBC入りしたが、彼らもこの難しいルートをアルパインスタイルでやるのは不可能と判断し、6100mで引き下がった。

2016年の春、オーストリアのダーフィット・ラマ、ハンスイェルク・アウアー、アレックス・ブリュメルが南東稜に取付き、ビバーク3回で6550mまで迫ったものの、撃退されてしまった。ラマはこの登攀の模様を短いビデオにまとめて公開したが、3年後にカナダのハウズ・ピークでアウアーと共に亡くなった。

ウクライナのミハイル・フォーミン、ヴィアチェスラフ・ポレジャイコ、ニキータ・バラバノフは2019年秋に南東稜を試みることにした。前年の12月、フォーミンの誕生日を祝った夜、他の客が帰ってから3人でくつろいでいるときに話が決まった。2017年にガッシュブルムⅠ峰の新ルートに挑んで失敗し、18年ブロードピークの通常ルートを登っただけだったので、手ごたえある対象として選んだのだ。しかし、この年は深い雪に妨げられて6300mで終わった。再挙したのは昨年秋。高所順応にはⅣ峰のスロープを使い、6900mまで往復した。攻撃に際して食料と燃料は12日分(装備を含め総重量40kg)用意したが、実際には18日間を要した。11月6日頂上に立った3人はアンアプルナBCへと下山、そこからヘリでピックアップされた。それぞれ12kgから15kg体重が減っていた。最初の挑戦から40年を経て、「最後の課題」は解決された。ロシアとの間に不穏な関係を抱えるウクライナにとっては唯一の朗報と言うべきか。



アンアプルナⅢ峰南東稜の6100mから7100mの間に立ちはだかるロックピラー ウクライナ隊撮影

Enjoy Climbing

山本 大貴

Golden Gate, El Capitan, Yosemite

2018年秋、不甲斐ない事に The Alcove で5日目の朝を迎えてしまった。今日も50mの垂直のユマーリングから1日が始まる。ギリギリ6日分粘れるだけの食糧や水を荷上したが、今日で5日目。先に進めたとしても、この後のピッチ数を考えればGolden Gateの完登は逃している。しかし、このピッチ”Down climb”5.12cの解決だけでもと考え、丸2日間トライしてきた。

Golden Gateは、アメリカヨセミテ国立公園、El Capitanにある37ピッチ、900mほどのルートである。この”Down climb”のピッチは、22ピッチ目となり、10cmほどのレッジがあればノーハンドで体勢を保てるほどの傾斜だが、ホールドが乏しい。易しいトラバースから始まり、下に5mほど降りてから、また右へトラバースするというショートルートではあり得ないラインである。

5mほどのダウンクライミングでは、核心を2つこなさなければならない。上部は手に足(手に足とは名前の通り手で持っているホールドに足を乗せるムーブ)の状態、逆の足で極小の外傾フットホールドに乗り込みつつ、手に足側の足を解除する。絶妙なバランスの中、繊細な動きが要求される。

下部は反転、パワームーブとなり、シワの様なフットホールドを踏みつつ、スローパー(スローパーとは、とっかかりの少ない丸みを帯びたホールドのこと)に目掛けて、重力によって落下する体を渾身の力で止める、極端なムーブとなった。

8:30には日射によって壁が温められ始めてしまうため、毎日朝4時に薄暗い中起床。フィックスロープを登り、1日の仕事が始まる。勝負は午前中のみとなり、日中はポーターレッジに戻り休む事としていた。トライ3日目の午前、まだ気温が上がり切る前に何とかレッドポイント。登れた喜びよりも安堵感が全身に広がる。昼前にはパートナーの長門もレッドポイントし、とりあえず一区切りはついた。The Alcoveから失意の中、ラッペルダウン。地上に着く頃には来春の再訪を2人で心に決めた。

足りなかったのはボルダー力。冬の間、久しぶりに山には入らず、ボルダーエリアへ通う事にした。冬に山に行かないシーズンは初めてで、少し後ろ髪を引かれつつも、次のトライへ向けて体を維持する事を優先させた。

出来る限り花崗岩慣れが必要かと思い、エリアも笠間や豊田などスラブやフェースに主軸を置いてトライを



核心ピッチ”Down climb”

重ねる。春になると長門とロープを結び始め、ヨセミテに向けてマルチを再開。

瑞牆のコスモスを1日、自由登攀旅行を2日間で完登出来るなど冬のトレーニングの成果を実感することが出来た。

2019年は、5/10-6/15の日程でヨセミテに再訪。いつも通りクッキークリフなどで体慣らしを始めた。その後もショートルートをこなし、マルチも何本か登ってからいざGolden Gate、という計画はうまく運ばず、最悪の天気。雨、雨、雨。こればかりは、どうする事もできない。そこで、Knobby Wallという傾斜120度から145度もあるエリアで過ごす事もしばしば。他に行けそうなどころといえば傾斜が強く雨に強そうなLearning Towerなど毎日が雨を意識したエリア選択となった。おまけに雪まで降る日もあり、ヨセミテバレーから夜、逃げる様に車をフレズノ方面へ走らせるが、峠に降り積もる雪を見て、あえなく車を引き返す事もあった。

完全に消化不良のままフレズノへ一時避難、ジムに行ったりREIで他エリアのトボを探したりする羽目になってしまった。

好天周期がついにやってきた。タクティクスとしては前回トライと異なり、Free Blastとハートレッジからの上部分ける事にした。これには理想のワンプッシュと違いはするが、上部に幾らかの体力は温存できる。

6/6 私自身3度目となり、慣れたFree Blastは朝一から登り始め、お昼には地上に降り立つことが出来た。春のヨセミテは、日差しが強く、南面の日中はクライミングどころではない。ランチを挟み、日が陰ってきから荷物をハートレッジまでホーリング。その後2日間はトライに向けてレストを挟む事にした。

6/9 3:00起きでいよいよ5日間のクライミングが始まる。春のヨセミテは日が長い。5:30頃には明るく夜も20:00まではヘッドなしでクライミングする事ができる。この日は、通い慣れたクライミングをこなし、12時にはThe Alcoveに到着。

見飽きぬ雄大な景色の中、南東壁にぶら下げたポー



雪のおかげで入園ゲートが封鎖



ヨセミテで欠かせない行動食”ペーグル”

ターレージの上で、これから毎日クライミングができる喜びに浸りながら、これからの事を考えた。昨年トライしたダウンクライミング、今回は同じ日数を掛けるわけにはいかず、可能な限り明日の朝には終わらせたい。前回進めなかったその先に駒を進めたい。しかし、そんな思いとは裏腹に、El Cap Spireから続くクラックは染み出しで濡れており痛恨の3トライを要してしまった。

18:00より鬼門のDown climb のピッチをトライ。20:30までお互いムーブを確認した。気温は秋に比べ高

いものの、イメージよりムーブをこなす事が出来、明日への期待が膨らんだ。執拗に探りすぎたためか、眠る頃には夜中の12時を回る始末。

山本 大貴

1986年兵庫生まれ。関西学院大学山岳会所属。高校までサッカーに明け暮れるも、TV番組『情熱大陸』フリークライマー小山田大にて、クライミングと出会う。大学入学後、山岳部のクライミング体験会に騙され、登山の門をたたく。登山はしぶしぶ続ける中で、山の楽しさに魅了され、現在に至る。クライミングと雪山が好み。

元・日本山岳協会会長 坂口三郎氏を偲んで

田中文男

旧日本山岳協会の会長を三期六年間お努め頂いた坂口三郎氏が他界された。

坂口さんは大正十五年・昭和元年のお生まれで旧海軍兵学校のご出身。戦後は海から山の世界に身を投じられたが、ご職業は魚市場の社長。スマートで・しかも古武士の面影を保ち、当時としては登山界では珍しい紳士だった。

全日本山岳連盟から日本山岳協会へ。時代と共に登山界も大きく変わっていったが、そのリーダー格だったのが坂口さんだった。

それまでの協会は、楨有恒氏、松方三郎氏、渡辺公平氏、今井田研二郎氏など著名な方々が会長に就任され、その後は鎌田久氏、齊藤一男氏など東京都山岳連盟ご出身の方々が就任された。しかし、齊藤一男会長時代に大きなトラブルが発生し齊藤会長は退任。その後始末を託されたのが栃木県山岳連盟会長の坂口三郎氏だった。

私自身、再三固辞したにもかかわらず、当時の都岳連会長の小林勉氏から「新しい日山協を作るのが反対なのか！君は。俺も副会長をやるから、君もやらなければ駄目だ。坂口さんからの強い依頼だ」とどなりこまれた思い出があった。

断りきれず就任。地方岳連出身初の坂口三郎会長を三期六年間支えさせて頂いた。矢でも鉄砲でも、全ての盾となる決意で、一緒に仕事をさせて頂くことができました。

後日、「感謝してます」と坂口会長にお礼を言われ恐縮したこともあった。

ライフワークとして私がか心を注いでいる事業、児童養護施設の運営についても関心を持って下され、黙って巨額なご寄付を下されたこともあった。本当に有難かった。

協会も名称が変り、まさに新しい時代に入った。今日の基礎は坂口会長が築かれたといってもいい。

「だまって見てるだけでは駄目ですよ。必要な時にはサポートしないと」

昨年、最後に頂いた言葉が懐かしい

残念ながら今年の協会参与会には坂口さんのお姿はなかった。

「安らかに」などと言ったら他人行儀になる。

でも、長い間、苦しい日山協をお助け頂き本当にありがとうございました。

どうぞ今後ともこれからのJMSCAをお守り下さい。お願い申し上げます。

元・日本山岳協会会長

寄贈図書

(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2342号	新聞	(公社)日本山岳会	「山」2021年12月号 No.919	会報
中華民国山岳協会	「中華山岳」<雙月刊>285	報	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」12月号 第488号	報
(特非)日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」Vol.85	報	(一財)日本スポーツマンクラブ財団	「日本スポーツマンクラブ財団会報」第168号	報
(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.523 202111	報	日本ヒマラヤ協会	「HIMALAYA」No.499	報
兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第653号	報	三峰山岳会	「岩つばめ」No.366	報
福岡山の会	「せふり」No.407	報	(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2348号	新聞
(公財)埼玉県スポーツ協会	「スポーツ埼玉」Vol.292	報	やまびこ山想会	「やまびこ」第197号	報
(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2343号	新聞	福岡山の會	「せふり」No.408	報
(公社)日本武術対極連盟	「武術対極拳」11月号 No.381	報	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第655号	報
山と溪谷社	「山と溪谷」12月号No.1044	雑誌	日本山岳遺産基金	「日本山岳遺産基金通信」2021 No.019	報
(公財)日本スポーツ協会	「Sport Japan」Vol.58	報	おいらく山岳会	「山行手帖」No.745	報
日本勤労者山岳連盟	「登山時報」12月号 No.562	報	(公財)全国高等学校体育連盟	「全国高体連ジャーナル」Vol.42	報
(公財)日本スポーツ協会	「JSPOスポーツニュース」「JSPOフェアプレインュース」Vol.134	新聞	Corean Alpine Club	「山」2021年12月号 Vol.270号	報
(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2344号	新聞	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.525 202201	報
東京野歩路会	「山嶺」Vol.99 No.1101	報	(特非)日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」Vol.86	報
(公財)日本スポーツ協会	「Sport Japan」Vol.58、手帳	報	出利葉 義次	「赤石岳 謎の遭難」	寄贈
新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第357号	報	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」2月号 No.896	雑誌
おいらく山岳会	「山行手帖」No.744	報	中華民国山岳協會	「中華山岳」<雙月刊>286	報
(公社)日本山岳会	「山」2021年11月号 No.918	報	山と溪谷社	「山と溪谷」2月号No.1046	雑誌
(一社)埼玉県山岳・SC協会	「SMSCA NEWS」No.72	報	(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2349号	新聞
(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2345号	新聞	(公財)日本スポーツ協会	「Sport Japan」Vol.58	報
(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.524	報	認定NPO法人富士山訓練所を活用する会	「会報「芙蓉の新風」Vol.16の送付について	報
兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第654号	報	常北山水会山岳部	「山水」第47号 創立70周年記念号	報
(株)山と溪谷社	「ROCK & SNOW」No.094	広報誌	(公社)日本武術対極連盟	「武術対極拳」2022年1月号 No.383	報
(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」1月号 No.895	雑誌	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」2月号 No.564	報
(公財)日本スポーツ協会	「JSPOスポーツニュース」「JSPOフェアプレインュース」Vol.135	新聞	(公財)日本スポーツ協会	「JSPOスポーツニュース」「JSPOフェアプレインュース」Vol.136	新聞
(公財)日本スポーツ協会	「アクティブチャイルドプログラム」第7号	広報誌	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第443号	報
Vertical-Life S.r.l	「ROUTE SETTER」#4 2021/2022	雑誌	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」11月号 第489号	報
(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2346号	新聞	(独法)日本スポーツ振興センター	「HPSC NEWS LETTER」Vol.34	報
(公社)日本武術対極拳連盟	「武術対極拳」No.382	報	(公財)スポーツ安全協会埼玉支部	「スポーツ埼玉」Vol.293	広報誌
山と溪谷社	「山と溪谷」1月号No.1045	雑誌	東京野歩路会	「山嶺」Vol.99 No.1103	報
長野県山岳協会	「やまなみ」No.243	報	(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2348号	新聞
トータル・オリンピック・レディス会(TOL)	「TOLだより」2021年36号	報	おいらく山岳会	「山行手帖」No.746	報
影山 淳	「アラムクからマナスルへ」	書籍	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第443号	報
(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2347号	新聞	(公社)日本山岳会	「山」11月号 (No.920)	報
東京野歩路会	「山嶺」Vol.99 No.1102	報	(公社)日本山岳会	「YOUTH CLUB 山」1月号 (No.10)	報

日時：令和3年12月9日(木)
14:00～17:30

場所 Web会議

出席者 丸会長、亀山、小日向、高野各副会長、小野寺専務理事、古賀、村岡、相良、蛭田、濱田各常務理事、山口、町田、前田、山本、六角、青山、水村、栗田、水島、野村、安井、小竹、笹生、原各理事、中畠、古屋各監事

1. 開会

2. 会長挨拶

皆様、ご苦勞様です。丸です。

本年最後の理事会になります。先週、私は近畿ブロック会議に出席し、またUIAA公認夏山リーダー講習会用テキストの研修会に参加しました。テキストは内容が濃く、懇切丁寧に記述されておりました。

これに基づきUIAAの英語による審査が行われます。

昨夜、新しいISMF会長のRegula Meier氏と1時間ほど電話会談しました。

昨年8月より、私共の山岳スキーに関するゴール、アクションプランを明確しなければいけないと議論を進めておりますが、未だ明確なものができていないことを反省しています。新会長より中国のアクションプランなど教唆していただいたので、東南アジアに遅れることなく、これから巻き返しを図っていききたい、と考えています。これには「人」が必要です。これからキーパーソンを中心にした最強メンバーを組んで1月から取り組んでいきたいと思っています。

諸問題、細かい事がいろいろ起こっていますが、小日向副会長の長期海外出張をはじめ、各副会長が機動的に動いていただいている、また、各常務理事の方々にも動いていただいている、足腰の強い活動ができています。このペースを1月から倍増して継続していききたいと思っています。よろしくお願いたします。

3. 会議成立状況報告

理事数 24名中24名出席

監事数 2名中2名出席

4. 議長選出

会長が議長をつとめる(定款第32条)

5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)

ホストは小野寺専務理事が務める

6. 議題

議案第1号 議事録の承認について

2021年度第9回理事会議事録の承認について(事前送付済)

事前配信済の議事録について異議なく承認された。

議案第2号 新春懇談会表彰者について

以下の方々全員一致で承認された。

● 岳連推薦の功労者

香川県山岳連盟 十河利雄氏、

(一社)大阪府山岳連盟 山田悟史氏

山形県山岳連盟 伊藤吉樹氏

● 登山指導者(2名承認済)

● SC部

・優秀選手

藤井 快 世界選手権モスクワ大会 男子ボルダリング 優勝

緒方良行 I F S C クライミングワールドカップ 男子ボルダリング 年間ランキング1位

・東京オリンピック功労賞

野中生萌 東京オリンピック 総合2位(銀メダル)日本人1位

野口啓代 東京オリンピック 総合3位(銅メダル)日本人2位

・ユース

久米乃ノ華 世界ユース選手権 ジュニア女子リード優勝

上村悠樹 世界ユース選手権 ユース A 男子リード優勝

安楽宙斗 世界ユース選手権 ユース B 男子リード優勝

議案第3号 山岳スキー強化計画について

本議案は令和4年1月理事会にて再検討することした。

議案第4号 2022年4月～5月 I F S C 主催/直轄WC 盛岡開催について

村岡SC部長による資料説明ならびに質疑の結果、賛成22、棄権ゼロ、反対1(水島理事)により承認された。

水島理事反対理由：前年度に2022年度は国際大会を開催しないと機関決定している。2019年度八王子開催の世界選手権と同じ雰囲気(手法)である。

開催地：盛岡市 前回ボルダリング施設を新設しており、開催希望が強い。

I F S C が日本でWCを開催希望の理由：

2020東京オリンピックのレガシー

2023年の予定で準備を進めている八王子WC開催に繋がる。

2026年パリオリンピックへのデリバリーモデルとなる

大会運営に係る経費関係

大会総経費4500万円(I F S C、岩手県、電通・シンカ 各1500万円)

興行収入はすべてI F S Cに帰属する。

J M S C Aは役務の提供(技術系と運営スタッフ派遣、外国選手出入国の対応)を行い、当該経費はすべてI F S Cが負担し、J M S C Aの負担はない。

大会運営に関するリスク：安全面が懸念される。コロナ禍の状況によりどのように対応するのか。

J M S C Aへの恩恵

コロナ禍で海外大会への派遣ができない中で、選手が国際大会に参加する機会が増える。

参加国枠で参加選手が増える。

業務委託契約を締結し、役務経費、作業分担、責任範囲を明確化すること(中畠、山口)。

大会開催への進捗状況に関して、村岡SC部長より逐次理事会宛報告がなされる。

議案第5号 赤尾事務局員の理事会・常務理事会オブザーバ参加について

小野寺専務理事から口頭説明があり、全員賛成で承認された。尚、赤尾氏には守秘義務が課されている。

議案第6号 次回理事会開催方法について(オンライン/ハイブリッド)

小野寺専務理事より口頭説明があり、全員賛成で承認された。

議案第7号 2021年度全国理事長会議について

配布資料に基づき小野寺専務理事より説明があり、開催日時、会議次第、開催方法(ハイブリッド方式)等について全員賛成で承認された。

対面出席を希望する参加者(理事・監事を含む)からアンケートを取る。

議案第8号 2022年度予算作成日程及び委員会メンバーについて

配布資料に基づき審議の結果、全員賛成で承認された。

承認事項：

令和4年度部門別予算枠

予算作成日程

予算委員会メンバーに濱田豪常務理事を追加する

議案第9号 アスリートパスウェイ(謝金改定)について

ML配信資料(P-11)に基づき、小野寺専務理事ならびに安井理事(強化委員会)より説明があり、全員賛成で承認された。

謝金改定追加項目：選手強化活動の指導SCコーチ1または2を保有するPFコーチ5000円

競技会、講習会等のスポーツ行事運営

SCコーチ1または2を保有するPFコーチ5000円

事務作業(外部協力者)2500円

7. 報告

報告第1号 11月度月次決算報告について 相良常務理事(財務担当)が配布資料に基づき説明した。

報告第2号 監事指摘事項回答報告について 各回答取り纏め責任者より丸会長宛報告内容の説明があった。

丸会長からの監事宛回答書については、それを受領後両監事が内容を検討し、すり合わせを行い、会長及び関係各部に意見表明する。

報告第3号 安全登山指導者研修会当該県引継ぎについて

配布資料P29に基づき小野寺事務局長より説明があった。

令和4年度、東部は茨城県、西部は島根県が担当。

令和4年1月16日、アルカディア市ヶ谷において連絡会議が開催される。

報告第4号 2022年・創立60周年記念新春懇談会について

今回はSC関係と登山関係の二部に分けて開催される。

午前中は登山及びSC関係の表彰式と懇談会、スポンサー、メディア、J M S C A役員等。立食または着席、アルコール飲料無し。

顧問・参与会を挟んで午後は新春懇談会、立食または着席で行う。J M S C A役員、岳連関係者(表彰者を含む)、招待者等。会費制(1万円)。

報告第5号 Y F C(ユースフューチャーカップ) 鉾田 女子ユースCジャッジにつ

いて

村岡 S C 部長より口頭報告があった。
11月27～28日に開催された銚田においてジャッジミスが発生した。原因としては参加者が248名と多く、スタッフの数が十分でなかった。メディア対応、当該選手への説明を迅速に行った。今後適切な参加者数などを検討し再発を防ぐ。

報告第6号 ジム連に対しての協賛金100万円、博報堂(久光製薬)への返却について

小野寺専務理事より口頭による報告があった。

今年度は、ボルダリング検定、ジム連理事会も開催できず、協賛金を使用しなかった関係で返却することとした。

報告第7号 東北ブロック会議に提出した山形県文書について

亀山副会長より報告があった。

山形県山岳連盟が抱えている問題点は、全国 J I M S C A 加盟の連盟・協会でも発生している可能性があり、一県だけの問題ではないと危惧している。

12月25日に山形市の会議室を借り上げ、山形県山岳連盟幹部から状況報告を受け、対応策を協議する予定にしている。

報告第8号 invoice 制度(消費税)について
配布資料に基づき、濱田常務理事より説明があった。

平成5年10月1日より invoice (適格請求書) 発行事業者からの仕入れのみ消費税の仕入税額控除を受けられることになるので、J I M S C A は、適格請求書発行事業者ならびに非課税事業者の取引先の把握・確認作業を進める必要がある。これに基づき、取引先の限定など必要措置を講じる必要がある。

報告第9号 S D G s 推進委員会の各委員会纏め報告について

来年1月を目途に纏める。

報告第10号 第17回日本スポーツグランプリ候補者推薦について

推薦締め切り令和4年3月まで。推薦条件が厳しく対象者は少ない。

報告第11号 S C 指導員の認定について

蛭田常務理事より常務理事会にて下記の方々が承認された旨報告があった。

主任検定員 検定日10月9日 東京会場
①安藤篤司(富山) ②中島陽子(山梨)
主任検定員 検定日10月30日 兵庫会場
①方山文生(兵庫) ②安達(アンダチ)直浩(兵庫)

主任検定員更新10月30日 神戸会場
①羽鎌田裕子(千葉) ②飯田ゆか(千葉)
③江崎幸一(北海道) ④高橋留智亜(北海道)
⑤土屋正昭(埼玉) ⑥目次俊雄(千葉)
⑦傘木靖(長野) ⑧下村真一(宮崎)
⑨新原孝喜(福岡)

⑩菅野富寿(福島) ⑪鈴木正之(神奈川県)
⑫西村良信(兵庫)

主任検定員 11月20日 茨城会場

①広島祐士(茨城)
S C コーチ 2 養成
9月25～26日、10月9日～10日 東京
①佐藤亮太 ②柿崎暢 ③横内鉄郎
④大高伽弥 ⑤島津雅一 ⑥石原幸江
⑦熊代顕 ⑧林泰宏 ⑨栗田季慎子
S C コーチ 2

10月16日～17日、30日～31日 兵庫

①大越久喜 ②山口裕稔 ③河野陽子
④伊藤孝雄
S C コーチ 1 養成

10月23～24日、11月6日～日 東京
①小田部拓 ②岡崎俊作 ③島田義信
④小松里実 ⑤井樋拓史 ⑥森田淳一
⑦窪田修平 ⑧島朋史 ⑨加藤淳平
S C コーチ 1

10月23日～24日、11月6日～7日 兵庫

①西本達雄 ②川口貴司 ③堀智忠
④佐藤巧 ⑤益戸隆 ⑥橋山武志
⑦山本論 ⑧麻島大悟 ⑨内藤理絵
⑩内田一行 ⑪土谷祐輝 ⑫宮田百花
S C コーチ 1

11月6日～7日、11月13日～14日 千葉

①佐藤慎哉 ②玉利成昌 ③小林彰爾
④小林節子 ⑤中村敏章 ⑥賀来素直
⑦伊藤康裕 ⑧原貴幸
S C コーチ 1

7月10日～11月21日 茨城

①田中真伸 ②高原和之 ③富岡弘行
④飯田薫 ⑤黒澤哉子 ⑥森清隆

報告第12号 マーケティング委員会委員長変更について

常務理事会にて承認を受けた資料(配布資料 P 43)に基づき報告された。

利益相反に関する件につき山口ガバナンス委員会管理事務から質問があり討議された。

村岡 S C 部長より稲村委員長による S C マーケティング活動の重要性の説明があった。

管理事務2名の必要性については濱田豪 S C マーケティング委員長より調整する旨の回答があった。

古屋監事より慎重に検討する必要があるとの指摘があった。

常務理事会承認済みであり、今回は報告事項である。

報告第13号 役員派遣について

(12月10日(金)～1月12日(水))

(1)第7回ボルダリングユース日本選手権倉吉大会 12月18日(土)～19日(日)

於：鳥取県立倉吉体育文化会館

丸会長、村岡常務理事、他

(2)国立登山研修所主催 安全登山サテライトセミナー 12月18日～19日

於：国立オリンピック記念青少年総合センター 亀山副会長

(3)第12回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会

12月25日(土)～26日(日)

於：加須市民体育館 丸会長、小野寺専務理事、村岡常務理事他

(4)山形県山岳連盟との会談

於：山形市食糧会館会議室

12月25～26日 亀山副会長

(5)2022年 J M S C A 新春懇談会

1月15日(土)

於：アルカディア市ヶ谷 丸会長、他

(6)安全登山指導者研修引継ぎ会

1月16日(日)

於：アルカディア市ヶ谷

小野寺専務理事、古賀常務理事

報告第14号 山岳スキー委員会の強化委員について

常務理事会にて次の5名が承認された旨の報告があった。

松澤幸靖、小川壮太、藤川健、加藤倫子、星野和昭

常務理事会の確認事項は：

任期は令和4年3月末日までとする。

今後の委員任期は1年とし、少なくとも J S P O スポーツ指導者資格取得に必要な共通科目を受講する事を条件とする。

報告第15号 五輪検定の件について

小日向常務理事より説明があった。

検証意見を纏めて、来年1月理事会に報告する。

報告第16号

小野寺専務理事より J O C より交付金2000万円が交付された。例年500万円程度だったので、4倍増となっている。ガバナンス、コンプライアンスに取り組む本協会の姿勢が高く評価されたものと思われる。

報告第17号

古賀登山部長より、選手登録システムに問題があるとの報告があった。

来年2月に選手登録が始まるので、それまでに改善する必要がある。

次回理事会で再度諮りたい。

報告第18号

蛭田コーポレートコミュニケーション委員長より、登山部の F B をアップしている。J M S C A ⇒ F B を検索して、多くの皆さんに観ていただき「いいね！」をクリックして盛り上げて頂きたい。

報告第19号

水村理事より、J M S C A 後援の国際ロッククライミング研究学会は J M S C A の多くの役員にご協力いただき成功裏に終了した。

8. 各専門委員会の報告について

記載省略。議案配布資料を参照してください。

9. 会務・役員派遣

(11月12日(金)～12月8日(水))

安全登山研修会

11月20日(土)～22日(日)

於：佐賀県武雄市山内町周辺

丸会長、古賀常務理事

北信越山岳連盟・協会代表者会議出席

黒部市役所観光課他挨拶

11月20日(土)～22日(日)

於：北信越ブロック 亀山副会長

Top of the Top 2021

11月22日(月)～23日(祝、火)

於：葛飾東金町運動場スポーツクライ

ミングセンター 丸会長他

ユースフューチャーカップ

11月27日(土)～28日(日)

於：茨城県銚田市生涯学習館スポーツ

クライミングセンター 丸会長他

尚、令和4年1月から、理事会資料を事前に印刷して郵送配布することは、事務局負担軽減等の観点から、原則として中止させていただき、事前に電子メールにて送らせていただきます。ご了承をお願いします。

「ガンバ!負けるなガバちゃん」

作者:未来



表紙のことば

表紙写真の巨大な岩塔は、ムスタグ・タワー(7,273m)。ビアンゲ氷河とチャガラン氷河の間に聳えるこの山は、南西面と北東面が垂直に切り立っているの、巨大な岩塔に見える。

初登頂は、1956年7月、イギリス隊(J.ハートウグ隊長ら4名)が北西稜から6日に西峰、7日に西峰と東峰に登頂。

同時期にフランス隊(G.マニョヌ隊長ら4名)は、ビアンゲ氷河から南東稜を登って、7月12日に登頂。

同時期に南北双方から初登頂が争われたのは、ヒマラヤ登山史上珍しい。

(写真撮影 尾形好雄)

編集後記

東京の蔓延防止宣言が出る前に、2年ぶりの新春懇談会が開催できました。マスクは当然、考えられる対策を取りました、やはり対面で話をするのが良いですね。会うということはこれほど多くの情報を無意識に交換していることを実感します。

このところ新規感染者はピークダウンしているのか、少しづつ下がるのを富士山型と言うらしい。1月の遭対の山岳レスキュー講習会(積雪期)は感染対策を行い実施されました。BJCもLJCも実施されました。さあ、3月以降は本格的に事業が実施できそう。(蛭田伸一)

登山月報 第635号

定価 110円(送料別)
 予約年間 1,300円(送料共)
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月1回15日発行)
 発行日 令和4年2月15日
 発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
 Japan Sport Olympic Square 807
 公益社団法人
 日本山岳・スポーツクライミング協会
 電話 03-5843-1631
 F A X 03-5843-1635

〒141-0031
 品川区西五反田6-3-23-205
 ☎03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

山岳
雑誌

岳人

山と人、時代をつなぐ「岳人」

3月号
発売中

特集① 屋久島の山々

特集② 奄美群島へ

★モンベルのウェブサイト
 全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格968円(税込)



年間購読がおすすりめです

購読割引 送料無料 限定品プレゼント
 年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常価格12冊 10,560円(税込)
 年間購読なら12冊 1冊分おトク! 9,680円(税込)
 11,616円(税込) → 10,648円(税込)

年間購読特典

わずか32g!*

岳人 コンパクト マルチランプ

限定デザイン

さまざまなシーンで活躍する超軽量ヘッドランプ。
 ※単4形乾電池1本含む重量

全国1,900カ所以上でのご優待!
 岳人カード

全国の温泉や山小屋など提携施設でさまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから! >>>
<https://www.gakujin.jp/>



全国のモンベルストアでも受付中!

お問い合わせ
 モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
 ※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及支援 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング 	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの支援 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応 	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> 次世代モビリティ社会への対応(自動運転車等) 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。

*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



登山者のマナー 山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難搜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院
- 傷害通院
- 傷害手術
- 日常生活賠償

日山協 山岳共済会

〒170-0013東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
<https://sangakukyousai.jp>



「MAMoL マモル」
山を愛する人たちの共済会を～

WEBからもお申込みいただけます